会社概要（平成29年3月31日現在）

■所　在　地　東京都豊島区東池袋三丁目23番14号
■設　　立　昭和52年5月6日
■株式の状況　発行可能株式総数　40,000,000株
　　発行済株式の総数　22,579,700株
　　株　主　数　4,872名
■従　業　員　694名
■資　本　金　6,388,671,700円

大株主の状況（上位10名）

株　主　名	持株数	持株比率
エー・アンド・デイ従業員持株会	1,603千株	7.70%
HSBC BANK PLC A/C MARATHON FUSION JAPAN PARTNERSHIP LP	1,248	5.99
㈱デンソー	1,122	5.39
ビーピーエイチ フオー フィデリティ ロー プライスド ストック ファンド（プリンシパル オール セクター サブポートフォリオ）	909	4.37
日本マスタートラスト信託銀行㈱（信託口）	806	3.87
㈱埼玉りそな銀行	606	2.91
㈱足利銀行	490	2.35
古川　哲	448	2.15
日本トラスティ・サービス信託銀行㈱（信託口）	421	2.02
日本トラスティ・サービス信託銀行㈱（信託口5）	336	1.61

(注)1. 当社は、提出会社名義の自己株式を1,755,880株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。なお、自己株式には株式給付信託(BBT)の導入に際して設定した資産管理サービス信託銀行株式会社（信託E口）が所有する当社株式335,400株を含んでおりません。
2. 持株比率は発行済株式総数から自己株式を控除して計算しております。

重要な子会社の状況

会　社　名	資　本　金	出資比率	主要な事業内容
研精工業株式会社	81,800千円	100.0%	電子天秤及び医療機器の製造
リトラ株式会社	200,000千円	100.0%	インジケータ、ロードセル、電子式台秤及び選別・仕分け機器の製造
株式会社オリエンテック	268,640千円	100.0%	計測機器の製造
株式会社サム電子機械	330,000千円	100.0%	各種試験装置の製造、販売
株式会社ベスト測器	20,000千円	100.0%	環境計測機器の開発、製造、販売
株式会社MBS	200,000千円	100.0%	自動車計測に関するエンジニアリングサービスの提供
A&D ENGINEERING, INC.	200千米ドル	100.0%	当社製品の販売（米国）
愛安德電子（深圳）有限公司	45,000千香港ドル	100.0%	電子血圧計及び計量機器の製造
A&D RUS CO., LTD.	505,247千露ラブル	100.0%	当社製品の販売（ロシア）

ホームページのご案内

当社ホームページでは、IR情報や技術情報、会社情報等充実した内容となっております。
今後も株主の皆様に向けて当社の情報を提供してまいりますので、どうぞご覧ください。

http://www.aandd.co.jp/

株主メモ

事業年度　4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会　6月下旬
株主確定基準日　3月31日
　その他必要があるときは、予め公告いたします。
単元株式数　100株
公告方法　電子公告により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。
　公告掲載URL　http://www.aandd.co.jp/
株主名簿管理人　東京都中央区八重洲一丁目2番1号
　みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所　東京都中央区八重洲一丁目2番1号
　みずほ信託銀行株式会社
　本店証券代行部

＜郵便物送付先・お問い合わせ先＞

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先	お取引の証券会社になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行　証券代行部
電話お問い合わせ先		0120-288-324（フリーダイヤル）
お取扱店		みずほ信託銀行　全国本支店 みずほ証券　全国本支店
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行及びみずほ銀行の全国本支店	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。	単元未満の買取・買増以外の株式売買はできません。

株式会社エー・アンド・デイ
〒170-0013 東京都豊島区東池袋三丁目23番14号
http://www.aandd.co.jp/

UD FONT　VEGETABLE OIL INK

第40期 報告書

平成28年4月1日 ▶▶▶ 平成29年3月31日

株式会社エー・アンド・デイ

東京証券取引所市場第一部上場　証券コード：7745

A&D Topics A&Dトピックス

Topics1 次期基幹ロケットH3用の第2段エンジンの計測設備を受注

当社は、宇宙航空研究開発機構（JAXA）で開発中の次期基幹ロケットH3用のエンジン高空燃焼試験設備用の計測設備について、第1段エンジン（種子島宇宙センター）に続き、第2段エンジン（角田宇宙センター）の計測設備を受注しました。

納入システムの概要

真空状態を地上で模擬しながら試験を行う設備において、第2段エンジンLE-5Bの燃焼の際に必要とされる情報（圧力、推力、加速度、温度、流量、歪み等々）を計測し、そのデータを中継地点を経て、計測・制御室に送るシステム。

特　長

- 従来使用されていた多数のアナログ・アンプを自動校正機能付ボードに変えることにより、校正に要する時間及びコストを削減。
- 中継地点から計測制御室間の通信を従来のアナログからデジタル化することにより、ノイズに強く、シンプルな配線となった。

使用された主な当社製品と技術

AD-PROCYON、iTest、WCA 他

高空燃焼試験設備（HATS）

画像提供：JAXA

真空状態を地上で模擬しながら第2段エンジンLE-5Bの試験を行う

角田宇宙センター HATS 低圧室のロケットエンジン

Topics2 環境・生体信号を同時に時系列記録できるマルチセンサ携帯型自動血圧計を開発

内閣府による革新的研究開発推進プログラム“ImPACT”の「社会リスクを低減する超ビッグデータプラットフォーム」のプロジェクトの1つであるヘルスセキュリティの一環として、自治医科大学との共同研究により、当社はマルチセンサ携帯型自動血圧計TM-2441を開発しました。

本製品は気温、気圧、高感度身体活動などの環境生活信号と、血圧、心拍、脈波波形の生体信号を同時に、時系列で記録できる製品で、取得したデータをビッグデータとして解析することにより、個人の環境・生活リズムを考慮した循環器疾患の個別治療への利活用が期待されます。

携帯型自動血圧計TM-2441

株主の皆様へ　To our shareholders

代表取締役
執行役員社長　森島　泰信

当連結会計年度の当社グループを取り巻く経済環境は、日本においては個人消費に伸び悩みは見られるものの、企業業績や雇用状況については緩やかな改善傾向の中で推移しました。

米国においては、景気は好調であるものの大統領選挙及びその後のトランプ政権の政策見通しを巡る混乱が見られ、欧州では英国のEU離脱問題に加え、ロシアにおける経済制裁に端を発した景気低迷が続き、中国では地方政府や民間企業の過剰債務や過剰な設備投資等の問題に出口が見えず減速傾向のまま推移するなど、先行きが不透明な状況が続きました。

このような状況の中、当社グループは新製品開発、新規市場の開拓に注力し、お客様や社会における多様なニーズとその変化に対応してまいりました。また、引き続き成長分野に対する積極的な投資を行うことで、他社との差別化を図ってまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は40,199百万円(前連結会計年度比0.1%減)、営業利益は1,133百万円(同0.8%減)、経常利益は1,105百万円(同8.9%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は477百万円(同6.4%増)となりました。

以上の業績結果を踏まえ、株主の皆様への期末配当金につきましては、1株につき7円、中間配当金5円を含めた当期の配当金は1株につき12円といたしました。

今後の見通しにつきましては、日本においては長期政権下での経済政策の効果等を背景に引き続き緩やかな回復を続けるものと思われます。一方で海外においては、米国の保護主義的な動き等、経済政策の不透明性、英国のEU離脱に伴う混乱、中国経済の減速懸念、中東やアジアにおける地政学的リスクの高まりなど、予断を許さない状況が続くものと予想されます。

このような状況の中、当社グループでは、更なる技術研鑽と新規市場の開拓、新規顧客の獲得に尽力するとともに、試験機やシステム品等の製品の標準化や海外生産の強化によって、一層の原価低減に努めてまいります。また、より効果的な研究開発投資を進めていくとともに、販売費及び一般管理費の効率的な活用に努め、グループを挙げて業績向上に邁進する所存であります。

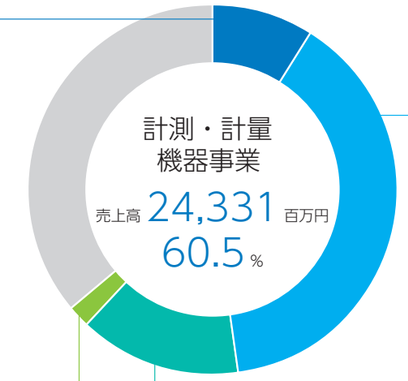
計測・計量機器事業　DSPシステムにおきましては、計測機・試験機メーカーである当社が提唱する自動車開発コンセプト「MBSim(Model based simulation)」を自動車・タイヤ業界に対し引き続き提案し、ユーザーにおける開発期間の大幅な短縮とローコスト化に貢献していくとともに、高速・高精度な計測、高度な制御技術、高度なモデル作成とシミュレーションツールの開発に一層注力し、その効率的な製造・販売体制の構築を継続してまいります。計量機器におきましては、DSP技術を用いたシステム製品の受注獲得に注力するとともに、精密天秤及びマイクロピペットによって参入した理化学市場向けに新製品を開発・投入し、販売強化を進めてまいります。また、ウェイトチェッカ及び金属検出機につきましては、更なる技術開発と製品の拡充を図るとともに、販売・生産に一層注力してまいります。さらに、日本アビオニクス(株)より事業譲受した工業計測機器に関しましては、当社の保有する基盤技術とのシナジーを図ることで、高機能かつ競争力のある計測機器を開発・市場投入してまいります。

医療・健康機器事業　医療用の計量器や血圧計、家庭向けの健康機器につきましては、引き続き通信機能を付加することで、遠隔医療や在宅医療といった医療ICT向けの機器を拡充していくほか、健康管理サービスと連携した製品を提案・拡充してまいります。健康機器では、高度医療から在宅医療、検診向けに使われている製品技術を、家庭向けに展開している強みを背景に、日本・米州・欧州のみならず、中国並びに新興国も含めた各家庭で求められる製品を拡充し、市場開拓に努めてまいります。また、中国現地法人での生産において、人民元高及び人件費等のコスト増に対応するため、一層のコスト低減とリスク管理を図り、近年設立したベトナムの生産子会社 A&D Vietnam Limited への生産移管を順次進め、生産最適化を図ってまいります。

次期の連結業績予想は、売上高42,500百万円、営業利益1,500百万円、経常利益1,300百万円、親会社株主に帰属する当期純利益700百万円を予定しております。

株主の皆様には、今後とも格別のご理解と変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

営業の概況　Result of business



計測機器 9.4 %

売上高　単位：百万円

材料試験機、疲労試験機は堅調だが、他が振るわず前期比減。

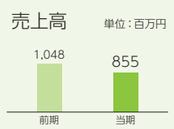
計量機器 36.0 %

売上高　単位：百万円

国内は成長分野と位置付けたウェイトチェッカ等の検査機器及び工業計測機器が売上を伸ばした他、既存の天秤・秤等も堅調に推移。海外は上期の円高の影響で業績が円換算で目減りし、全体では売上は横這い。

半導体関連 2.1 %

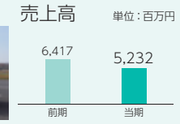
売上高　単位：百万円



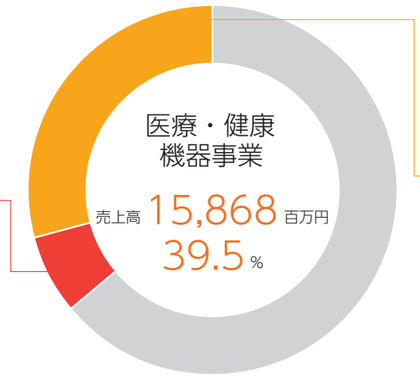
前期は案件が重なり一時的に売上が増加したが、当期は例年並みに推移。

DSP事業 13.0 %

売上高　単位：百万円

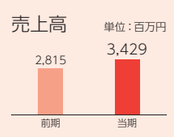


自動車向けが国内及び米国で苦戦し、売上減少。



医療機器 8.5 %

売上高　単位：百万円



国内での水銀製品廃止の代替え需要に対応した水銀レス血圧計を中心に売上が伸長。

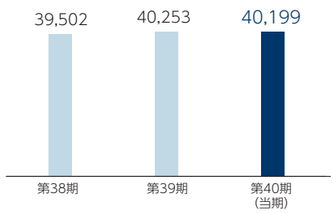
健康機器 30.9 %

売上高　単位：百万円

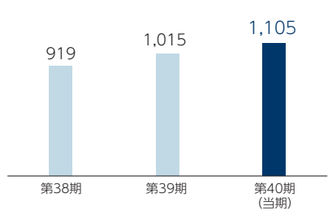
上腕血圧計やICT(Information Communication Technology:情報通信技術)体重計など新製品の寄与、及び昨年設立したカナダ子会社の売上付加により売上が伸長。

財務ハイライト　Financial highlights

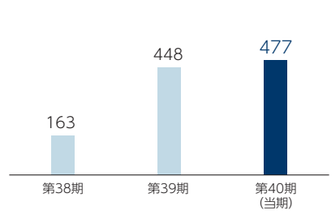
連結売上高　単位：百万円



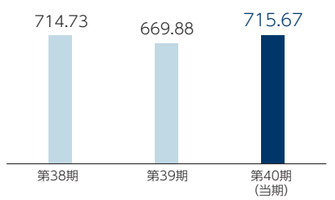
連結経常利益　単位：百万円



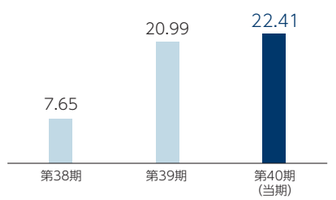
親会社株主に帰属する当期純利益　単位：百万円



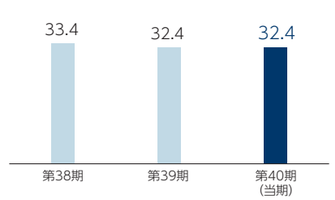
1株当たり純資産　単位：円



1株当たり当期純利益　単位：円

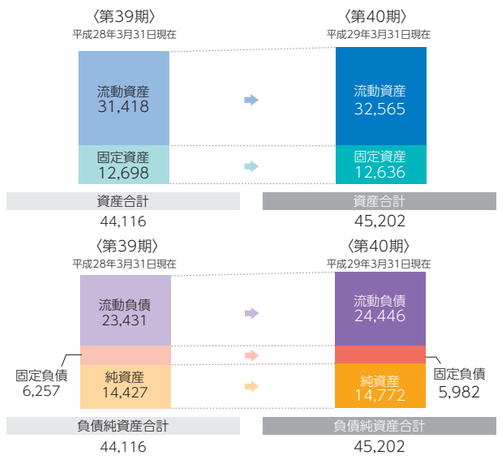
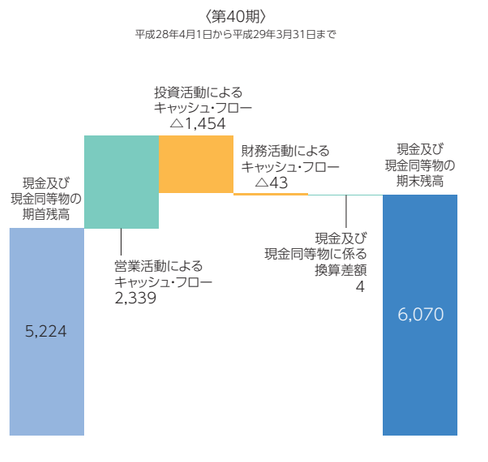


自己資本比率　単位：%



連結財務データ　Consolidated financial data

財務状況　単位:百万円



キャッシュ・フローの状況　単位:百万円